

只見の自然と文化の創造をめざして

# 第40回 只見町文化祭

## 自然首都・只見からの発信

第40回を迎えた只見町文化祭が、11月3日に只見地区センターで開かれ、町内外から約1600人が来場しました。開館式で、文化祭実行委員会会長の目黒町長は「地域文化の伝承を通じて文化意識を高めるとともに温かい心のふれあいと豊かな人間性を育み、生き生きとした地域づくりにつなげていただく契機としていただきました」とあいさつを述べました。続いて、目黒町長、五十嵐拓町議会議長、飯塚恒夫町文化協会長、横山大太郎町教育委員長の4名によりテープカットが行われ、詰めかけた町民の方などが次々と入場されました。

入口を入ると、まず目に留まるのが自然首都・只見にかかわるブナセンターの取り組みを中心に世界遺産級のブナの森などを展示物やスクリーンで紹介した自然首都・只見メインコーナーです。只見の自然は世界的にも貴重で、はかり知れない価値があること、この自然と共存共栄していく重要性などについてアピールされたコーナーでした。

▼手工芸コーナー(折り紙体験)



▼民芸品コーナー(つる細工体験)



▼自然首都・只見メインコーナー



▼町民芸術コーナー





華やかに、美しく  
**只見町文化協会・  
 芸能発表会**



只見町文化祭事業の一環として、11月14日、只見町文化協会芸能発表会が、季の郷・湯ら里で開かれました。出演団体は、只見音楽研究会、宝生流謡曲研究会只見松楓会、コーラス・はなみずき、はぎの会、瞳の会、みのり会、只見町民謡会、只見つくし会、蒲生花輪踊り保存会の文化協会に加盟する9団体の皆さんで、美しい歌声や華やかな舞踊などを次々と披露、会場を訪れた約200名の方々は、最後まで大きな拍手を送り、芸術の秋にふさわしい一日を過ごされました。



▲久野俊彦氏による記念講演会「法印の活動と書物」

▼民芸品コーナー



▼手工芸コーナー



▼民話茶屋での昔話「管家ツヤさん」



民話茶屋では、町昔話の会の方や町内の小学生による昔語りがあり家族や先生など大勢耳を傾けていました。また、民芸品コーナーのつる細工体験や手工芸コーナーのフェルト手芸などの体験にはたくさんの方が参加、指導を受けながら作品を仕上げていました。

健康づくりコーナーでは「ぼくとわたしの自慢の朝ごはんコンテスト」の表彰式が行われ、優秀賞に選ばれた渡部瑠唯さん（朝日小6年）や平野創士くん（明和小1年）などに目黒町長から賞状や記念品が手渡されました。また、奥会津振興センターと奥会津5町村の活動、さらに伊南川再生に取り組み奥会津元気回復協議会の活動が紹介された奥会津振興コーナーも設けられました。

菊花・盆栽・山野草、いきいき只見高校の各コーナーには丹精された努力の結晶ともいえる作品の数々が展示され、入館者に感動を与えていました。

茶道コーナーや日赤奉仕団ともしび会が行なったバザー、NPO法人こまどり会の販売コーナー、地元青年によるふるさと食堂なども大勢の方でにぎわい、大好評でした。また、センター前広場で行われた野菜やキノコなどの物産販売も朝から人の列ができるほどの盛況ぶりでした。

▼ぼくとわたしの自慢の朝ごはんコンテスト表彰式

